

## 【特集】 地域包括ケア

退院したその日から生活が  
できるように。  
暮らしを支える医療の  
プラットフォームへ。

平成26年の診療報酬改定とともに病床再編が行われ  
「地域包括ケア病棟」の現状や課題について伺いました。

急性期病棟で治療を終えた患者さんを受け入れ、病気をコントロールしながら在宅へ向かわれる方を中心に生活リハビリや内服コントロールを行う病棟です。当院では、一般病棟と同じ医師が主治医を担当しており、情報交換もスムーズに行え、引き続き同じ医療が提供できる体制を整えています。リハビリテーションについては疾患や年齢に関わりなく一日約40分以上行えるので、リハビリに時間のかかる高齢の方はとくにメリットも大

### 地域包括ケア病棟とは

2025年問題を見据えて段階的な医療対策が打ち出されるなか、平成26年の診療報酬改定とともに病床再編が行われ「地域包括ケア病棟」が新設されました。「退院後の生活を支える」医療機関として、急性期や在宅・通院治療を担う医療機関、また様々な介護事業者との連携を支えるプラットフォームとしての活躍にも期待が高まっています。新設から2年、病棟運営の現状や課題について、大津赤十字志賀病院の地域包括ケア病棟に勤務する看護師長、吉田明美さんにお話しいただきました。

きいと思います。

施設基準として、看護配置は13対1が基本ですが当院は10対1を確保しています。そのため当院では50床の患者さまを25名の看護師でケアすることが出来ています。ベッド稼働率はつねに90%以上と、ニーズの高さも感じています。

この病棟に就き、治療を終えただけでは家に直接帰れない人がたくさんいることを改めて知りました。退院したその日から生活していただけるようにするためにはどうするべきか。入院中にケアマネージャーさんと何度も話をさせていただいたり、退院前に看護師が自宅に向いて家庭の状況を確認しながら理学療法を進めたりするなど、生活コーディネートを担える職能が求められるようになったのです。

### 「医療」から「生活」へ、 看護師の役割も意識も 大きく変える必要が

病棟の新設前には、看護師の間で戸惑いも生まれました。その思いを払拭するべく、まず動くイメージを具体化し、自分たちが動きやすい組織づくりをしていこうと検討を行いました。地

域包括ケア病棟の看護師に求められる能力については、愛知県国立長寿医療研究センターによる研究成果を指標として参照させていただきました。「生活を見る力」「アセスメント能力」「社会資源に対する知識」「患者と家族の意向確認」など課題もたくさんでしたが、つねに勉強会や話し合いを重ね、在宅復帰を目指した患者一人ひとりの看護計画をもとに取り組むことを現在も続けています。

ご家族の方も「こんなことで困っている」「ご家庭での様子を話してくれようになりました。これまでは、病気を診て改善に向けた提案をすることが看護師の役割だと思っていました。それが実践できるかどうかは、患者さんの生活に大きくかわっていると気づきました。



【協力・監修】大津赤十字志賀病院